

中関小が自衛隊や消防、地域と連携し 1千人参加の防災学習 ヘリコプターの救助訓練などを見学

中関小(大坪勇一校長)で3日、陸上自衛隊や府市消防本部と連携した防災学習があり、児童らがヘリコプターの救助訓練などを見学。11日で東日本大震災から12年となるのに加え、2月にはトルコ・シリア地震も起きて災害への関心が高まる中、地域防災の大切さを学んだ。

全校児童740人の中関幼稚園、きんこう保育園、きんこう第二保育園の園児や地域住民も加わり、約1千人が参加した。児童たちは、地震を想定した避難訓練をした後、



ヘリで校舎屋上から要救助者を上げる
ホイスト訓練を披露



自衛隊員のリュックを背負わせてもらう体験も

校庭に集合した。陸自防リ・UH-1Jが校舎府分屯地第13飛行隊のヘリコプターが上空へ飛び、屋上にいる



消防車の装備を見学する児童ら

要救助者を引き上げるホイスト訓練を披露。児童らが歓声を上げた。

頭を守ることがを心掛けた」と話した。

校庭には自衛隊と消防の車両なども展示。児童らが災害派遣用の装備品を見たり、隊員が使うリュックを背負わせてもらったりした。隊員らは、子どもにも分かりやすい例を挙げながら、装備品の特徴を解説。ヘリに電気を供給する航空電源車の紹介では、価格が乗用車の2倍以上になることや、家庭用ゲーム機を一度にたくさん充電でき

るほどの容量を持つといった話があり、児童らを驚かせた。6年末田畑之介君(12)は「ヘリコプターの大きさにびっくり。飛んでるときはすごく迫力があった」。5年松藤陽菜さん(11)も「ヘリの中は、いろいろなボタンがあつて操縦する人は大変だと思

「防災学習」

令和5年3月9日
ほうふ日報

(杉田雄)